

と前の事情を委しく陳べましたので王様は此の兵隊がドイツ語を全く知らない僕人だと御さゝになり大層笑つてそのまゝ御歸りになりましたとさ

## 堇御殿

とよ子

或る所にお花と云ふ九つになる女の子がいました。此子の家は母さん一人きりで極く貧乏な暮らしをして居りましたから、お花さんは學校から歸ると直に水を吸んだり雑巾がけをしたりして母さんの御手傳をして居りました。處が或時お花さんが何時もの通り學校から歸つて見ると大事な母さんはお加減が悪いとて寝てお出です。お花さんは驚いて一生懸命にお背中を撫でたりお足をさすつたりして居ました。其中に大分母さんの御機嫌も直つた様ですからお花は此暇に母さんのお好きな堇を採つて來て挿して上げ様と思つて裏の牧場から

山の方へと出掛けて行きました。

頃は丁度春の半ばでたんぼやれんげなどが澤山今を盛りと咲いて居ります。お花は此きれいな花の中をあちこちと歩いて「堇やすみれ、母さんのお好きなすみれの花よ」と歌いながら堇の花の数々を採り集めて小さな花束を作りました。

頓がて氣がついてあたりを見ると何時の間にか来たのか道の知れない山奥の谷の中で何方が先來た方やらさつぱり道が知れなくなつてしましました。

お花は一人悲しくなつて「ママ氣のつかないことをした、何うしたらよからう」と思つて居ると後ろの方から

「お花さん〜、」

と云ふ聲が聞えました。お花は

「ハイ、何誰？」

と振り歸へつて見ると、是は又不思議、頓と見たことのない、然もきれいな姉さんが立つてお居ります。其顔の美しく優しいこと、そして頭には堇

の花の簪が一杯に挿してあつて右の手には堇の花籃を提げて居ました。そして優しい聲で

「お花さん、あなた、堇の花束造しらへて何なさるの？」と尋ねますから、お花は

「寢て居る母さんの御慰みに持つて行つて上げるのです」

と答へると姉さんは

「それではお花さん、そんなのよりもつとよい花を上げませう、私の家へ入らしやう、」

と云つて先きに立つて歩いて行きますからお花さんも後から附いて段々と山の奥のとある谷間迄來ますと大きな門のある立派な御殿に來ました。

處が其門は鍵が掛つて居て開きません、何うするかと見て居ると、其姉さんは手に提げて居た花籃の中から堇の花一つ採つて之と鍵の上に載せると不思議にギーツに云ふ音がしたかと思ふと大きな戸が左右に開きました。

門の中へ入つて見ますと廣い〜お庭には堇が一

杯咲いて居てよい香がブン〜と風に送られて來ます、頓がて御殿の中に入つて見ると何處も彼處も皆堇の花で埋められた様になつて居ます。床の間の掛物から襖の書迄も堇の花で飾つてありました。そして室の真中には大い卓子があつて其上には花籃が十も二十も置いてあつて何れにも皆堇の花があふれるばかりに盛つてありましたのでお花は我知らず聲を出して

「ア、善い堇だ」

と云ひますときれいな姉さんはニコ〜と振り返りながら、お花さん此花籃は大きいので小さいのでも何れでもあなたの好きなのを上げませうと云つて呉れました。お花は大悦びでよい加減の一つ貰つて家へ歸りました。スルト姉さんは門の處迄送つて來てそしてお花に

「さよーならお花さん、また明朝行らつしやい。そして此門が閉まつて居たら先きの様にして開けて入つしやい」

と云つて呉れました。お花も丁寧に御辭儀して家に歸りましたが、家では大層お花の歸りが遅いので母さん心配して居る所でした。

「母さん唯今、いゝ花でせう」

「オーお花かえ、大層遅かつたね、私何うかしたのかと思つて居たよ、オーきれいな花だね、何處にあつたえ」

そこでお花は山できれいな姉さんに遇つて堇の御殿へ行つたことを話して籃から一つかみの堇を採つて母さんの手に渡さうとする花の下から異様な光がバツと光りました。お花は

「アラ、母さん何でせう是は？」

と云ふので能く〜籃の中を改めて見ると花の下は一杯の寶石でダイヤモンドだのルビーだのと云ふ大變貴い飾り玉が澤山に續々と出て來ました。母さんは大層驚いて是はさつと山の姉さんが間違いて呉れたのだらうから返さなくてはいけないと云ふので明日の朝お花は學校へ行く前に籃を持つ

て山へ行き前の日に教へられた道を通つて堇の御殿へ行き昨日の様に堇の花を門の鍵に掛けると門が獨り手にギーンと開き中には昨日の姉さんが立つて居ました。花子は直に入つて行つて

「姉さまおはよう御座います。昨日は誠に有り難う御座いました。お蔭様で母さん、大層悦びましたの？けれど私、姉さんにお詫に來ました。私昨日歸へつて籃わけて見たらば中から斯なものが出たの、是れ姉さん間違へて下さつたのでせう。私ちつとも知らなかつたの。」

「アラマア夫れで態々來たんですか。夫れなら貴女に上げたのだから貴女のものですよ。是からも一返しに來ないでよー御座いますよ。今日は歸りにも一つ上げませう。」

と云つて又一つ籃を呉れましたので、お花は喜んで家に歸りました。是からお花の家は貧乏でなく暮す様になりましたので近所の人は皆不思議に思つて居りました。めでたし〜〜〜